

山深い土地だから住民以外は「外国人」、採用に外国人材枠は設けていない。

COMPANY

岩手 湯川温泉「山人-yamado-」



企業概要

- 企業名:岩手 湯川温泉「山人-yamado-」
- 所在地:岩手県和賀郡西和賀町湯川52地割71-10
- 設立年:2008年
- 資本金:300万円
- 従業員数:25名
うち高度外国人材1名／国籍内訳:ネパール
- 業種:宿泊業
- ホームページ:<https://yamado.co.jp>

事業内容

全室源泉かけ流しの高級旅館「山人(やまど)」を運営。地元では「山人」と呼ぶ山仕事の達人にならない、山の恵み、山の優しさと厳しさを宿泊客に伝えることをコンセプトに、地域食材をいかした料理で地域の魅力を発信している。

企業インタビュー



専務取締役
高鷹 由枝 氏

高度外国人材を受け入れたきっかけ・背景

いつもの採用活動をしていたら、外国人学生から応募があった

高度外国人材を受け入れよう意識したことはありません。いつもの採用活動をしていたら、ご縁があったのが外国人の方でした。初めての受け入れは2019年。東京で開かれた岩手県主催の合同企業説明会に参加したところ、バングラデシュ出身の学生から応募があり、採用に至りました。外国人と一緒に働くことになら違和感がないため、その後も受け入れは続いています。

高度外国人材受け入れに当たっての取組内容

外国人応募者の面接には、外国人スタッフを同席させる

高度外国人材に特化した採用活動をしているわけではないので、外国人労働者を斡旋する企業からの営業は基本、お断りしました。対面の企業説明会には積極的に参加して、外国人からの応募があれば、日本人と同じように分け隔てなく対応してきました。ただ、面接のときには既存の外国人スタッフに同席してもらうなど、安心感を持ってもらえるような配慮は心がけています。

高度外国人材採用に当たっての課題と解決策

宗教と食の制約に困難を感じ、面接時に「食」事情を説明することに

今は退職したバングラデシュ人スタッフですが、宗教上の理由から豚肉が食べられません。豚肉に触れるのはもちろん、豚肉が入った料理の器や取り箸に少し触れることも避ける必要がありました。

そのような経験もあり、これからは食事に制約のあるお客様も増えてくるとの思いから、良い機会として前向きに捉え、そこから宗教と食について勉強するようになりました。ただ、手は尽くしたものの、最終的

には彼自身が毎日お弁当を作ってくるという生活になってしまいました……。ここは山奥でコンビニもなく、2食のまかないを出しているのですが、彼にはそれができなくて申し訳ないことをしてしまいました。

この経験から、採用に当たり、外国人応募者との面接では宗教や食について、話を聞いたり、説明を詳しくするように気を付けています。

高度外国人材定着に当たっての課題と解決策

入浴文化の違いは、思っていた以上に深刻だった

温泉旅館を運営している当社ならではの事情かもしれませんが、入浴文化の違いが離職の一因になったことがあります。退職したのは、入社して半年ほどの中国人スタッフ。当時、旅館の1室を社員寮として使用し、日本人スタッフとともに4名で生活していました。お風呂は大浴場の温泉を利用していたのですが、終業時間が同じなので、入浴時間もだいたい重なり、みんなで一緒に入ることになります。一人で入り

たくても、時間をずらすのもままならない。それが、彼女にはストレスになってしまったようです。

温泉や銭湯の文化がある日本とは違い、シャワー文化圏の人にとっては、みんなで湯船に浸かるのはとても抵抗があるのだと痛感しました。ネパール人スタッフも、温泉文化には慣れないようです。社員寮の場合、お風呂に関しては特に配慮が必要かもしれません。

高度外国人材活用による成果・変化

日本語を丁寧に使うようになり、地元の魅力も日々再発見している

この西和賀町は山深く、コンビニや遊び場もない、日本人でも驚くような僻地です。このような土地では、いわば、町内の住民以外はみんな外国人。そういったこともあり、外国人が入社したからといって、特に意識したことはありません。ただ、スタッフみんなが、日本語を丁寧に使うようにはなりましたね。仕事の説明なども伝わりやすいように、それぞれが工夫しています。それが、海外からのお客様に対してもし

かされていて、好循環が生まれている気がします。

この土地の魅力に、改めて気づかされることも多いです。例えば、バン格拉デシュの気候では、樹木は葉を落とすことがなく、葉が落ちるときは木の死を意味するそうです。日本では、冬に葉を落として死んだはずの木が、春になると再び芽吹くことに驚いていましたね。日本人にはない感性に、日々教えられています。

高度外国人材社員インタビュー

INTERVIEW

日本語レベルをもっと上げて、 接客の仕事の幅を広げたいです。

BUDHA MAGAR GITA 氏
(ブッタ マガル ギタ)

国籍:ネパール 2023年入社



入社理由

仙台市にある東北電子専門学校で在学中、就職支援の先生から山人を紹介されました。まず、オンラインで面接して、その後、履歴書を提出しました。選考に残ったので、先生に付き添われて、山人の見学に来ました。そのとき、この西和賀町の自然がネパールに似ていたこと、スタッフがとても親切だったことが決め手となり、ここで働きたいと思ったのです。

業務内容

山人では、早番・中番・遅番の3つのシフトがあるのですが、私は早番と中番を担当しています。具体的にはフロント業務やお客様のお見送りをを行っています。また、新卒スタッフやアルバイト、インターンシップ生の指導も任されています。ネパール語と日本語のほかに英語も話せるので、海外からのお客様に対応することもありますね。

東北地域で働く理由・良さ

ネパールの大学を卒業してから、仙台市にある日本語学校で学び、東北電子専門学校に進学しました。3年半、仙台に暮らしたので、就職も東北地域でするものだと思っていました。

東北地域というよりも山人の良さですが、スタッフみんなが家族みたいに優しいです。また、西和賀町の山々はネパールの山に似ていて、懐かしくなります。ここで働けて良かったです。

今後のキャリアプラン

山人では、夕食をお出しするとき、料理に使用している食材一つひとつを、お客様に説明しています。日本語をもっと磨き、山菜を始めとする食材のことももっと覚えて、お客様に説明できるようになることが、今の目標です。チェックイン・チェックアウト対応のように、一人でやる仕事もできるようになりたいです。